

たり、携帯電話を貸して、ドイツにいる息子に無事であることを連絡させたそうです。そして、話し相手となり、東京に行くことを進めました。東京行きの車を探してあげますがガソリンが無いことや通行止めでなかなか見つかりません。30 数台目でやっと仙台へ行く車を見つけました。また、ガソリン代などでお金が必要と思い、現金3万円をドイツ人一家に持たせました。

3人目は仙台まで3人を乗せてくれた女性の運転手。名前は知りませんが、仙台の東京行のバスが出発する場所まで送ってくれたそうです。しかし、バスは出たばかりでした。

4人目は、仙台の避難所に救援ボランティアをしていた長岡市国際交流センター長の羽賀友信さんでした。何とかこの3人を東京へ連れて行きたいと思いました。東北自動車道の通行止めや東北新幹線の不通、渋滞などの道路状態を考え、山形県を通過して新潟まで車で行ってそこから新幹線で東京へ行くことにしたそうです。山形県から新潟県に入ってすぐガソリンが無くなりそうで、村上の友人に電話して援助を頼みました。それが5人目の松本さんです。松本さんの家に泊り、5日ぶりにシャワーを浴び、あたたかい食事を食べ、初めて日本酒をいただいたそうです。その時の写真がこれです。

翌日、羽賀さんの車で長岡市まで行き、そこから新幹線で東京へ行き、ドイツ大使館に行き、18日にドイツに帰国したそうです。

日本人から「善意のリレー」で帰国できたドイツ人一家は、「命の恩人に会ってお礼を言いたい」とドイツのテレビ局に協力を求めました。日本のテレビ局に依頼し、命の恩人である庄司さんを探し当てました。ドイツのテレビ番組が出演を依頼しますが、「人の命を救うのは当たり前のこと」と拒否していました。しかし、強い説得でドイツに行くことになりました。翌年の2月にドイツのテレビ番組で劇的な再会を果たしました。

番組の中で、唯一東日本大震災を経験したドイツ人一家として、その時の様子や津波に遭遇したときの状況などを質問され、説明しました。その中で「互いのために助け合う。他人に対しても緊急時には人間らしく接するという日本人は素晴らしい国民である。」と日本人の素晴らしさを誉めていました。

世界では、戦争をしたり、人を傷つけたり、外国人に冷たくする国もあります。知らない土地で不安でいっぱいの時、このような親切を受けたらどんなにうれしいことでしょうか。世界の人々がこのように親切な人ばかりであれば、世界中のみんなが幸せに暮らせると思います。困っている人を見かけたら、あなたの温かい優しさをあげましょう。きっと私達も温かい優しさをもらえると思います。

☆「あらかわ あいさつの日」【9月30日(金)】

のぼり旗紹介

○標語採用

2年生 井上 ほのか

「あいさつで 笑顔あふれる 街づくり」

○イラスト

3年生 江端 萌花



☆都市駅伝大会結果【9月14日(水) グリーンパーク荒川】

〈男子〉5位入賞 1:07:02

区・距離	1区 3.1km	2区 3.1km	3区 3.1km	4区 3.1km	5区 3.1km	6区 3.1km
走者氏名	富樫 聖斗	臼井 藍大	佐藤 颯	須貝隆之介	内山 暖和	渡邊 歩輝
学年・組	2-2	2-3	2-1	2-2	1-1	2-3
タイム(区順)	10:36 (6位)	11:20 (5位)	10:59 (4位)	11:25 (6位)	11:15 (4位)	11:27 (8位)

〈女子〉6位入賞 56:39

区・距離	1区 3.1km	2区 2.3km	3区 2.3km	4区 2.3km	5区 3.1km
走者氏名	鈴木 月菜	井上 咲南	平田 那奈	玉木 遥渚	近藤 陽菜
学年・組	2-2	2-2	3-3	2-2	2-1
タイム(区順)	12:40 (7位)	9:15 (5位)	9:38 (3位)	11:21 (10位)	13:45 (7位)

〈男子記録会〉3.1km

◇10位 渡部 偉 (1-3) 12:13

◇15位 伊藤 翼 (1-3) 14:52

☆表彰

○ 日本漢字能力検定合格者【検定日 7月8日】

3級	井上 直紀	臼井 綾	大浜 明莉	金田 陽奈	木村 実由	栗田 来翼	齋藤 永吏
	3-2	3-3	3-1	3-2	2-1	3-2	3-3
4級	坂上慎太郎	鈴木 真彩	遠山 優奈	中東 彩乃	渡邊 彩花	渡邊 琴美	渡邊 奈央
	3-3	3-2	3-3	3-3	3-1	3-3	3-3
5級	石井 康貴	中東 陽和		近 維織	高橋 真咲	萩原 健太	
	3-3	2-1		1-2	1-1	1-2	

○ ICTプロフィシエンシー検定合格者【検定日 7月26日(火)】

3級	大浜 明莉	4級	遠山 瞬	水澤 諒
	3-1		1-2	1-2

○ 数学検定合格者【検定日 7月9日】

3級	徳富 貴大	三井 樹紀	4級	石井 康貴	坂上慎太郎
	3-1	3-2		3-3	3-3
5級	柏櫓 郁斗		6級	近 維織	
	2-3			1-2	

○ 村上市私の主張大会【8月20日(土) 村上市情報センター】

奨励賞 新野 遥 (3-2) ※青雲祭で発表予定

○ バドミントン 下越支部【7月24日(日) サンビレッジしばた】

女子ダブルス Bクラス 3位 佐藤 智咲 (3-1)・佐藤 えり (3-1)
Cクラス 3位 小島 舞雪 (2-3)・鈴木 月菜 (2-2)

○ バドミントン・ヨネックスカップ【8月20日(土) 新発田カルチャーセンター】

女子ダブルス Cクラス 3位 小野 妃那 (1-1)・渡邊 美吹 (1-2)

○ 郡市1年生ソフトテニス研修【8月6日(土) グリーンパーク荒川】

女子 第1位 遠藤 瑞穂 (1-2)・真保 明音 (1-3)
第5位 島津 月花 (1-2)・山田菜々子 (1-3)
第5位 佐久間徳香 (1-3)・田澤莉梨果 (村上東中)
男子 第3位 山田 莉久 (1-2)・新野 勇人 (1-2)

○ 卓球全日本卓球選手権 県予選新発田地区大会【8月6日(土)新発田加チャーセンター】

2年男子シングル 第1位 佐藤 恭祐 (2-1)
第2位 柏櫓 郁斗 (2-3)
第3位 齋藤 嶺 (2-1)
男子ダブルス 第3位 佐藤 恭祐 (2-1)・齋藤 嶺 (2-1)

○ 陸上 ジュニアオリンピック県予選会【8月27日(土) 五十公野公園陸上競技場】

砲丸投 第1位 坂上健太郎 (1-3)
円盤投 第2位 磯部 萌 (3-1)

○ 女子バスケットボール ファイナルチャレンジ2016

【8月6日(土)・7日(日) 村上中等教育学校体育館】

準優勝 荒川・平林・村上中等合同チーム
MVP 富樫実乃里 (3-1)

☆皆さんに伝えたい話

親業訓練シリーズが終了したので、皆さんに感動する話やぜひ伝えたい話、面白い話などを紹介していきたいと思います。

「花嫁の電話」 HP・「NTT 西日本」コミュニケーション大賞受賞作品より

由香ちゃんが近所に引っ越してきたのは、まだ小学校三年生のときでした。時々我が家に電話を借りに来るのですが、いつも両親ではなく由香ちゃんが来るので、おかしいなと思っていたのですが、しばらくしてその訳がわかりました。

由香ちゃんのご両親は、耳が聞こえない聴覚障がいがある方で、お母様は言葉を発することが出来ません。親御さんが書いたメモを見ながら、一生懸命に用件を伝える由香ちゃんの姿を見ると、なんだか胸が熱くなる思いでした。

今なら携帯電話のメールがありますが、その時代を生きた聴覚障がいを持つ皆さんは、さぞ大変だったろうと思います。由香ちゃんの親孝行ぶりに感動して、我が家の電話にファックス機能をつけたのは、それから間もなくのことでした。

しかし、当初は明るい笑顔の、とてもかわいい少女だったのに、ご両親のことで、近所の子供達にいじめられ、次第に黙りっ子になっていきました。そんな由香ちゃんも中学生になる頃、父親の仕事の都合で引っ越していきました。

それから十年余りの歳月が流れ、由香ちゃんが由香さんになり、めでたく結婚することになりました。その由香さんが、「おじさんとの約束を果たすことができました。ありがとうございます」と頭を下げながら、わざわざ、招待状を届けに来てくれました。私は覚えていなかったのですが、「由香ちゃんは、きっといいお嫁さんになれるよ。だから負けずに頑張っネ」と、小学生の由香ちゃんを励ましたことがあったらしいのです。そのとき「ユビキリゲンマン」をしたのでどうしても結婚式に出て欲しいというのです。「電話でもよかったのに」と私が言うと、「電話では迷惑ばかりかけましたから」と由香さんが微笑みました。

その披露宴でのことです。新郎の父親の謝辞を、花嫁の由香さんが手話で通訳するという、温かな趣向が凝らされました。その挨拶と手話は、ゆっくりゆっくり、お互いの呼吸を合わせながら、心をひとつにして進みました。「花嫁由香さんのご両親は耳が聞こえませんが、お母様は言葉も話せませんが、こんなにすばらしい花嫁さんを育てられました。障がいをお持ちのご両親が、由香さんを産み育てられることは、並大抵の苦労ではなかったろうと深い感銘を覚えます。嫁にいただく親として深く感謝しています。由香さんのご両親は“私達がこんな身体であることが申し訳なくてすみません”と申されますが、私は若い二人の親として、今ここに同じ立場に立たせていただくことを、最高の誇りに思います」

新郎の父親の挨拶は、深く心に沁みる、感動と感激に満ちたものでした。その挨拶を、涙も拭かず手話を続けた由香さんの姿こそ、ご両親への最高の親子孝行だったのではないのでしょうか。花嫁の両親に届けとばかりに鳴り響く、大きな大きな拍手の波が、いつまでも披露宴会場に打ち寄せました。

その翌日。新婚旅行先の由香さんから電話が入りました。「他人様の前で絶対に涙を見せないことが、我が家の約束ごとでした。ですから、両親の涙を見たのは初めてでした」という由香さんの言葉を聞いて、再び胸がキュンと熱くなりました。




〈担当者のコメント〉

私の知っている人も、御両親が耳の障害を持っていらっしゃるって、立派な方がいます。口でのコミュニケーションの大切さは言うまでもありませんが、子供の躰とはいったい何だろう？と思いますね。口うるさく世話ばかり焼いている親がいますが、子はいつものことだと無視です。

大切なことは親の生き様、生きる姿勢だと思います。一挙一動です。何も言わなくても、子は見ていて真似るものです。もちろん、私が立派な親だというわけではなく、反省の弁でもあります。

☆10月は「3R（スリーアール）推進月間」

3Rとは、ゴミを減らし、循環型社会を実現するためのキーワードで、リデュース（減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再資源化する）の頭文字Rを取ったものです。ゴミは全て元をたどれば地球の貴重な資源です。そうした資源に感謝しながら、ものを大切に扱うことを考えて実行していきたいでしょう。

	荒川中 だより		村上市立荒川中学校 平成28年度 第8号 平成28年10月7日発行 Tel. 0254-62-3251	
教育目標：「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」				
目指す学校像：「勢いとハートのある学校」（ハート＝熱いハート、温かいハート、柔軟なハート）				

青雲祭に向けて クラスの絆 一層強く

「山粧（よそお）う」というように秋らしくなって、校舎脇の桜の葉も色づいてきました。近隣の山々も黄色や赤など「粧う姿」になっていくのが楽しみです。

体育祭、定期テストが終了し、青雲祭に向けて、合唱の歌声が響いています。その歌声から、どのクラスも素晴らしい合唱を披露してくれるものと期待しています。

体育祭の反省が各教室の廊下に掲示されています。同じ軍団の学年からも感謝のメッセージが送られています。特に印象的だったのは、「このクラスのみならず体育祭に参加できたことが何よりもうれしかったです」という3年生の内容です。最上級生として、賞の獲得に関係なく、最後の荒川中学校の体育祭をみんなで心一つにしてやりとげた喜びを感じさせます。一人ではできない「みんなで伸びる喜び・みんなで創る喜び・みんなで生きる喜び」を感じてくれて、とてもうれしく思います。

今月2日の青雲祭に向けた決意も書かれていました。一人一人の歌声が美しいハーモニーとなって「みんなで創る喜び」をさらに味わってほしいし、周りの人達に感動を与える合唱になるよう願っています。

全校朝会「善意のリレー」～津波ののまれたドイツ人一家 日本人の親切に感謝～ 善意のリレー 最後の5人目は当校51期の卒業生

3日の月曜日に全校朝会で「幸せになるために大切にしてほしいこと」の4話目、「他人に親切にすること」で東日本大震災で津波にのまれたドイツ人一家が日本人5人の善意のリレーで母国に帰国できた話を紹介しました。なんと「善意のリレー」のアンカーは、松本興太さん、当校の卒業生でした。松本さんは、4人目の長岡市国際交流センター長の羽賀友信さんの友人で、羽賀さんが車で仙台から山形県小国町を通って来た時にガソリンが無くなりそうで、松本さんをお願いしたそうです。ドイツ人一家は、松本さん宅で一泊しました。5日ぶりに温かいシャワーと温かい食事、温かい布団で眠ることができたそうです。普段、当然に思えていることが一番の幸せなんですね。また、初めて日本酒を飲んだそうです。



左からユルゲン・シュピールベルグさん（72歳）、妻アンゲラさん（67歳）、娘ヨルケさん（33歳）、松本さん（28歳）、羽賀さん（61歳）※当時

○善意のリレー（概要） 〈善意＝良い心。他人のためを思う親切心〉

一人目の親切。庄司武志さん（当時38歳）の男性。ドイツ人一家が津波に襲われた時、アパートのフェンスにしがみつき、手が離れそうになった時、その手をつかみ、アパートの部屋に入れたのです。その部屋には老夫婦がいて水がももの高さまで迫ってきて、その庄司さんは老夫婦をテーブルにあげ、ドイツ人3人を流し台に座らせました。そして、寒さを防ぐため毛布や衣類を渡したそうです。この庄司さんは自分だけが水につかったままで救助を待ったそうです。

翌朝、自衛隊にみんな無事に救助され、避難所に行ったそうです。

2人目の親切は、避難所にいた役場職員の小湊忠さん。言葉が通じない3人におにぎりを差し入れ